様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月　 ８ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ００７１２

研究課題名（和文）産業化を視野に入れた伝統工芸の特長の抽出方法とアーカイブ化の研究

研究課題名（英文）Methods for archiving characteristics of traditional crafts with a modern industrial perspective

研究代表者
池田　美奈子（Ikeda, Minako）

九州大学・芸術工学研究院・准教授

研究者番号：００３６３３９１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：伝統工芸を継承、発展させるために参照できるアーカイブの構築を目指す本研究の成果としては大きく２つある。ひとつは、福岡県八女市の伝統工芸の技術を活用し、現代の生活に合った製品をデザインする実践的なプロジェクトをケースにした研究方法によって得られた、形（シェイプ）、模様（パターン）、様式（スタイル）の３つの「型」の考え方に基づく新しい製品を生み出すための思考と発想の枠組みを提示したこと、２つ目は、ウェブ上で閲覧できるアーカイブのプロトタイプを制作したことである。データベースの表示方法として、リスト表示、カード形式による詳細情報表示、および地図の３種類を用いてその可能性を考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
伝統工芸の多くが需要の減少や後継者不足により衰退しつつある現状において、伝統工芸を継承、発展させるためには、現代の産業に適用できる本質的な特長を比較・検討し、地域文化や風土との関連を考慮しながらそれぞれの強みを活かした包括的な戦略立案が不可欠である。また伝統工芸の持続的な活性化の取り組みには、第一次産業から第三次産業までを含む産業化を念頭においた視点で固有性を抽出し、俯瞰できる全国規模でのアーカイブが有用である。本研究はこうした戦略立案の際に参照できる資料の整備を念頭においた伝統工芸のアーカイブの基本的なフォーマットを示すことに意義を求めた。

研究成果の概要（英文）：This study develops a reference archive to inherit and develop traditional crafts. It has two main outcomes: first, a framework derived from the Kata concept and divided into three aspects, namely, “shape” (formative design), “pattern” (surface/decorative design), and “style” (use/cognitive design). Second, a prototype of a web-based traditional craft archive using three types of display methods: list, detailed information in card format, and cards.
The proposed framework of thinking and generating ideas is useful for analyzing and reinterpreting the techniques of and philosophy supporting traditional crafts to design new products in a modern context. It was built and verified through a practical project-based research on traditional handicrafts in Yame City, Fukuoka, Japan.

研究分野：デザイン

キーワード：伝統工芸　アーカイブ　型

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

全国の伝統工芸を網羅的に調査記述した柳宗悦の古典的名著『手仕事の日本』は、全国規模で網羅的であり、特に各伝統工芸の核心をつく現代的要素に対する洞察の鋭さとその後の影響力の大きさで際立っている。しかし本書が出版されたのは昭和21 年であり、伝統工芸を未来に継承するためには、柳の業績の意義を踏まえた上で、現代の変化を反映し、情報を更新することが有効だと考えた。また濱田琢司『民芸運動と地域文化―民陶産地の文化地理学』（2006）は、民芸運動と陶器の産地の影響関係を分析することで、いかに地域文化が形成されたかを明らかにし、伝統工芸をめぐる価値観に光を当てた。伝統工芸について広く地域文化や地域社会を含めた視座が示唆され、本研究の枠組みを検討する上で多くの示唆を得た。近年は、ヒアリングやフィールドワークによる産地研究、伝統工芸を活用した新製品の開発や評価、マーケティングに関する研究などが多い。また、伝統技能の暗黙知を生理学の手法で解明しようという試みも見られる。以上の学術的背景のなかで、本研究は、大きな方向性としては柳が示した土台に立ち、柳の手法に伝統工芸の核となる特長の抽出方法と民藝運動における情報の普及・展開方法を学び、さらに濱田の示した枠組みを射程に取り込み、現代の伝統工芸の状況と産業化を踏まえた情報の抽出と、持続的な情報拡充と更新の仕組みを構想する試みである。

また、2007年から取り組んできた福岡県朝倉郡東峰村の伝統的工芸品である小石原焼の現代生活への適用の実践的な研究や、福岡県八女市に集積する伝統工芸の振興と現代における新たな可能性を探る調査研究において和紙、仏壇、提灯、石灯籠、独楽の５種の製造プロセスと特長を紹介する調査展示などを行うなかで、伝統工芸の持続的な活性化の取り組みには、第一次産業から第三次産業までを含む産業化を念頭においた視点で固有性を抽出し、俯瞰できる全国規模でのアーカイブが有用であるとの着想を得た。

２．研究の目的

国内の伝統工芸の核となる技術的な「特長」を産業化の視点から抽出する手法を確立し、それらをアーカイブ化するためのフォーマットの提示と内容を持続的に拡充するための更新の仕組みを提案することを本研究の目的とした。伝統工芸の多くが需要の減少や後継者不足により衰退しつつある現状において、伝統工芸を継承、発展させるためには、伝統工芸の現状を全国規模で俯瞰し、現代の産業に適用できる本質的な技術の特長を比較・検討し、地域文化や風土との関連を考慮しながらそれぞれの強みを活かした包括的な戦略立案が不可欠である。本研究では、戦略立案の際に参照できる資料の整備を念頭においた、伝統工芸に関する情報の収集と選択、更新と共有の手法の考案を目指した。

３．研究の方法

研究の取り掛かりとして、福岡県八女市に集積する伝統工芸を具体的な調査対象とした。初年度は各伝統工芸に携わる工房を訪問し、観察や聞き取りをもとに現状を把握するとともに基本情報を整理し調査対象を選定した。２年目以降は、工房と職人に受け継がれて来た技術、及び新しく導入した技術を調査した上で、情報を俯瞰し、作業工程と技術の選定と文節化の方法を検討した。本研究は、より具体的に製品開発や産業化につながる要素を抽出するために、実践的なプロジェクトに基づいた研究方法を採用することにし、デザイナーや製品企画者が実際のプロダクトを開発する際に、どのように伝統工芸の技術を解釈したのか、着目した具体的な要素、またどのような要素から着想を得たのかを記録した。また、デザインプロセス全体をとおして、デザイナーと職人との間にどのようなコミュニケーションが生じ、それによってどのようにデザインが更新されていったのかも記録した。

これらの観察、経験、記録から得られた知見に基づき、将来的なアーカイブ化を見据えた情報構造を考察し、伝統工芸全般に破綻なく適用でき、現代的な製品に応用、展開可能な分類のフレームを検討した。実践的なプロジェクトのなかで制作された現代的なデザインプロトタイプを展示し、そのプロダクトの背景にある伝統工芸の技術や考え方を説明する広報資料を上記の分類フレームに則って制作し検証した。

最終年度は、上述の方法によって得られた結果を総合し、ウェブベースのアーカイブのワイヤーフレームを制作するとともに、八女の伝統工芸以外の伝統工芸への応用も視野にいれ、全国の伝統工芸に関するデータを試験的に入力し、アーカイブの有効性を考察した。

４．研究成果

(1) 福岡県八女市の伝統工芸である八女福島仏壇の技術の調査から「３つの型」、すなわち形（shape）、文様（pattern）、様式（style）の概念を導き出した。この３つの型に基づくマトリクスは、伝統工芸の特徴から現代のコンテクストにあった新たなデザインを発想し、プロダクトから空間、グラフィックまでを統一的に思考するためのフレームワークになりうるという仮説を立て、実際に仏壇の技術を応用したカトラリーセットのデザインおよび、プロダクトの展示空間、広報のグラフィックに応用し、その有用性を検証した。

図１　八女福島仏壇の技術を応用したカトラリーシリーズ「JIGU」
共同研究：八女市商工会議所、うなぎの寝床、なかにわデザイン

(2) 市場に出ている伝統工芸から発想したプロダクトを収集し、それらを「型」の概念を軸に分析することによって、(1)で述べた「型」のプロダクト開発における有用性についての仮説を、既存の事例から「型」の要素を抽出することで検証した。併せてこの結果をわかりやすく伝えるブックレットを制作して公開し、一般に型の概念を活用した製品開発の方法を提示した。
(3) 柳宗悦『手仕事の日本』の中に記述されている伝統工芸の産地と特徴を文章から抽出し、データベースを作成し、それを地図上にプロットし、アーカイブのプロトタイプを制作して形式を検討した結果、伝統工芸を地理的に俯瞰することで多くの気づきが得られることがわかった。
(4) 産業に貢献するアーカイブのあり方および基礎形態を検討するために、ウェブベースで閲覧できるアーカイブのプロトタイプを制作した。全国のデータを収録するために、染色を例として全国の工房、組合、取り組み事例などの情報を収集して収録した。データベースの表示方法として、リスト表示、カード形式による詳細情報表示、および地図の３種類を用いて検証した。

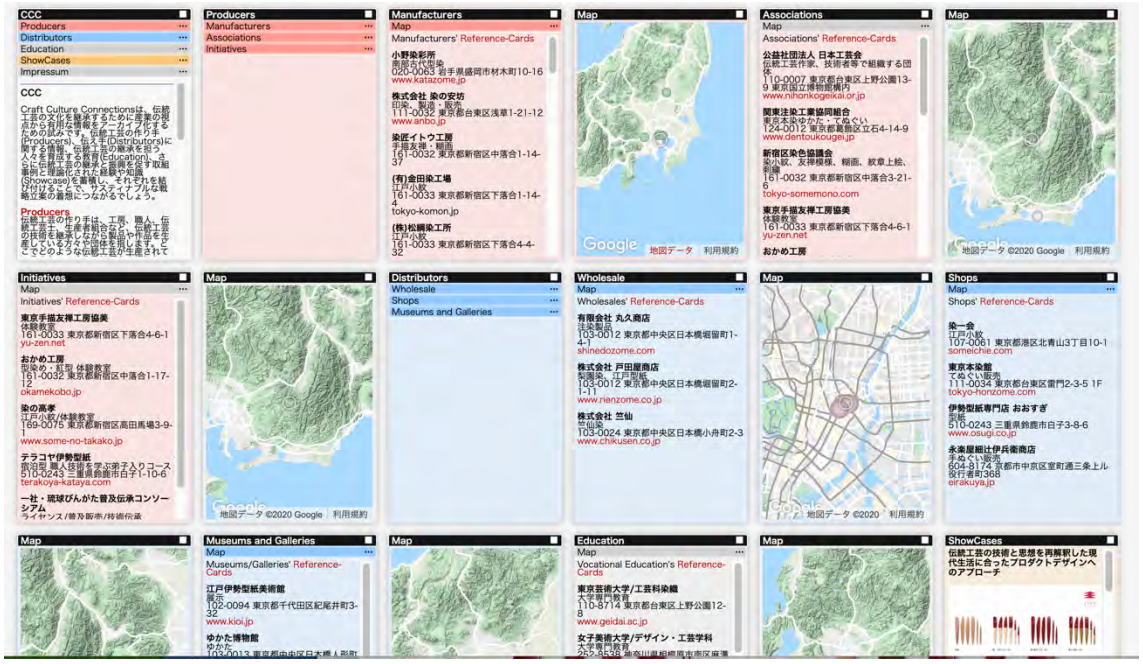

図２　伝統工芸アーカイブプロトタイプ
システムデザイン：IIDj

(5) 本研究では「型」のアプローチによる伝統工芸の技術を生かした新しい製品開発手法の可能性を提示し、さらに産業化を検討するために有用な情報を参照できるアーカイブのフォーマ

ットを試作した。この一連の研究プロセスで「型」の概念を掘り下げながら、染色の型紙との親和性とその産業的な活用可能性を知るにいたった。本研究が契機となり、染色型紙をテーマに伝統工芸のアーカイブの研究に2020年度から着手することになった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 Minako Ikeda	４．巻 -
２．論文標題 Scaffold for designing modern products by reinterpreting the technique and philosophy of traditional crafts	５．発行年 2017年
３．雑誌名 Proceedings, IASDR 2017	６．最初と最後の頁 1637-1647
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.7945/C2GQ33	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 Minako Ikeda
２．発表標題 Scaffold for designing modern products by reinterpreting the technique and philosophy of traditional crafts
３．学会等名 IASDR 2017, 7th international conference（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

池田美奈子、清水淳史、永嶋拓仁、王曦他、Found JIGU プロジェクト	KATA-CHI、2019 (型の考え方と応用を一般向けに紹介することを目的としたブックレット)

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考